

安心して地域に戻ろうーその1

コスモスクリニック院長 押田 恵子氏



押田 恵子 院長

コスモスクリニックの押田です。先ほどの事前のアンケートでも拝見しましたが、皆さんは地域連携についてどのような感想をお持ちでしょうか。本当は手術した病院の方が安心とか、初めての病院で

もう一度やり直しなのかなとか、主治医と離れるのは不安、などのイメージを持つ方もいらっしゃるかと思います。私たちのクリニックでは、乳がんの地域連携パスに基づいて、多くの患者さんの経過観察を行っていますので、実際どのようなことが行われているかということをお紹介いたします。

その前にまず知っていただきたいことは、乳がんという疾患一つをとっても、千葉県の中でも地域連携の形はいろいろあるということです。共用パスという形式は同じなのですが、実際は運用する拠点病院と、その周りの連携医療機関の実情に応じて内容は異なっていると思います。

例えば、年に1回か2回は患者さんが拠点病院を受診されて、画像の検査などを受ける。連携先の病院では処方を受けたり、血液検査を行っていただくというようなやり方です。

一方、県のがんセンターが拠点病院となっている地域連携パスでは、連携医療機関でほとんどの定期検査を行い、処方も行い、患者さんががんセンターに行かれるのは骨のシンチなどの特殊な検査とか、再発の疑いがあるというような場合に限られます。

千葉県乳がん診療地域連携研究会

この連携パスを作成して実行している、千葉県乳がん診療地域連携研究会について御紹介し

千葉県乳がん診療地域連携研究会の紹介

- 2008年に発足
- 乳癌に関する診断、治療およびその発展向上と地域における連携の普及を目的とする
- 年に2回、定期カンファレンスを開催
- 連携パスの内容や運用についての話し合い
- 乳癌の診断、治療についての勉強会



(図1)

ます。千葉県がんセンターが中心となって2008年に発足しました。乳がんに関しての診断・治療及びその発展向上と、地域における連携の普及を目的として、今年に2回カンファレンスを開催しています。パスの内容を決める際には、乳腺診療に携わっている開業医や病院の先生たちとかなり熱い議論があり、どの先生も患者さんにとって不安がないように、そしてがんセンターから引き続き連携先での診療がスムーズになるように、一生懸命考えてきました。また診断や治療についての勉強会などもあって、年々変わっていく標準的な治療を学ぶ場ともなっています。

パスの内容は、図2ようにがんセンターで今まで行われてきた定期検査の内容をほぼ踏襲しています。ここでアウトカムというふうに書いてあるのは設定される目標ですが、内分泌療法

経過観察（パス）の内容

- 5年目まで
 - 半年ごとの視触診、採血、乳腺エコー
 - 一年ごとのマンモグラフィ、胸部レントゲン
 - 骨シンチ（リスクに応じて）
 - 腹部エコー（リスクに応じて）
- 6年目以降
 - 視触診、乳腺エコー、マンモグラフィ、胸部レントゲン
- パスの目標（アウトカム）
 - 内分泌治療が5年間継続できる
 - 転移、再発がない
- パスからの逸脱（バリエーション）
 - 内分泌療法の副作用による中断など
 - 転移、再発の所見、または疑い



(図2)

が 5 年間行えること、そして転移や再発なく過ごされることとなっています。またバリエーションという言葉は、目標のとおりにならない場合に当たります。内分泌治療が副作用などで継続できない、転移や再発の疑いがある場合を指します。

医療者向けパス (図3)

患者さん向けパス(図4)

図 3 は病院、診療所の方に送られてくるパスの書面になります。ちょっと細かいのですが、患者さんにお渡しするパスの書面は同じ内容でちょっと見やすくなっています。

病院の方には、このほかに詳細な紹介状もいただいております。このように経過観察の予定を本人と連携先の施設が共有することは、患者さんが主体的に治療を受けていくことにもつながりますし、病院が変わることに対する不安の解消にも役立つと思います。

現在乳がん診療地域連携研究会に参加している施設は、図 5 のとおりです。だんだんふえてきています。参加の要件としては、「マンモグラフィ撮影と診断、そして乳腺超音波検査が可能な施設」というふうになっています。現在参加されている施設は、大体がもともと地域の乳がん検診に力を入れていた施設が多いので、マンモグラフィや超音波の検査は問題なく行うこと

乳がん診療地域連携研究会参加施設

- マンモグラフィ撮影と読影が出来る施設
- 乳腺超音波検査が出来る施設
- がん診療連携拠点病院
 - 千葉県がんセンター
 - 千葉岩災病院

連携施設

- ・ いとろ新検見川クリニック
- ・ 大網病院
- ・ 宍倉病院
- ・ 菅谷クリニック
- ・ 兼浜本郷クリニック
- ・ ますた乳癌・甲状腺クリニック
- ・ 白井にしざわクリニック
- ・ おゆみのクリニック
- ・ 三枝医院
- ・ みつわ台クリニック
- ・ 寺田クリニック
- ・ 県立佐原病院
- ・ 井上記念病院
- ・ みつわ台総合病院
- ・ 井上クリニック
- ・ 谷津保険病院
- ・ 津田沼中央総合病院
- ・ コスモクリニック

連携参加施設は、マンモグラフィや超音波検査による検診に実績のある施設が多い!

(図5)

が可能です。また、外科で勤務して乳がんの治療に携わっていて開業したという医師が主体となっています。ですから、検診などで乳がんが見つかって拠点病院で治療された後に、一段落したらまたもとの近くの病院で経過を診ていきましょうというやり方は、決して無理のない安全なことと考えています。

拠点病院と連携施設の所在地を見てみると、やはり人口の多いところに連携施設が多いので、千葉県の南側や銚子方面の患者さんには、まだ不便などがあると思います。

この研究会に参加してみて感じていることとしては、1つは拠点病院への紹介が円滑になったということです。ご紹介するときに「落ちついたらまたこちらで経過を診ていきますよ」というふうなお話をすると、特に今仕事がある方とか、小さなお子さんがいらっしゃる方は、ちょっとほっとされるようです。

2つ目は拠点病院の先生や他の病院の先生などと顔を合わせる機会が増えたことです。開業医になってみると、勤務医のころよりほかの先生と会うチャンスは減ってしまいますので、治療方針のことなどをいろいろお尋ねできるよい機会になっています。

3つ目としては、講演会などで最新の乳がん診療について学ぶ機会が増えたことです。

最後に先ほどお話したように、パスによって患者さんと共に治療を行っていくという体制が強く感じられるように思います。

患者にとってのメリットは？

患者さんにとっての地域連携の利点というものを考えてみました。これから手術を受ける新規の方に関しては、これから行く病院ともとの

患者さんにとっての地域連携の利点は？

- 紹介する病院と連携していることは、患者さんにとって安心感がある
- 拠点病院での経過観察を 必ずしも必要としない患者さんには、近くのクリニックの方が利便性が高い場合もある
- 必要時には拠点病院に優先的に予約可能
- 風邪や予防接種などの他の診療が同時に行える
- 待ち時間の短縮（？）

✱

(図6)

病院が連携しているということは安心感につながるといえます。また拠点病院での経過観察を必ずしも必要としない患者さんにとっては、近くのクリニックの方が利便性が高いということもあるかと思えます。そして、必要なときには拠点病院の予約は優先的にとっていただくことが可能です。だいたい翌日とか、最も早い予約を取っていただいています。

風邪などの診察とか予防接種などを一緒に希望される方も多いです。待ち時間の短縮という点については、施設によって異なると思いますが、当院では時期によってはちょっとお待たせしてしまうこともあるので、順番が来るまでは、携帯をお持ちの方などは携帯でお呼びして、それまでお買い物などしていただくということもあります。

パスの運用が始まってから、がんセンターの乳腺外科の外来の予約は以前よりとりやすくなっているように思えます。専門病院はどこも大変込んでいますので、パスによって専門病院の診療に少しでも余裕が生まれるということは、新たな患者さんにとっても、紹介するクリニックにとってもメリットは大きいと思います。

当クリニックのご紹介

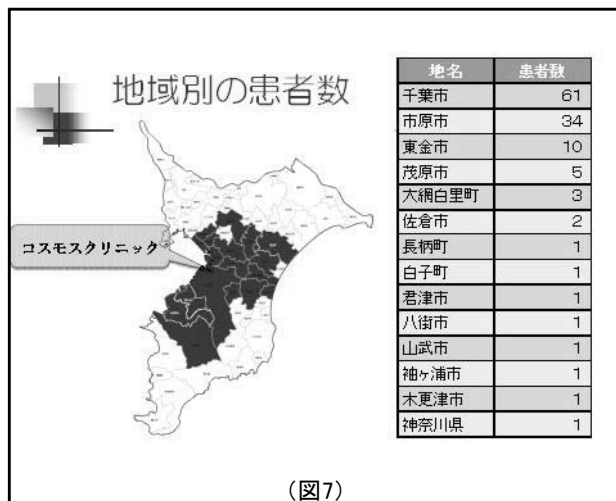
ここで少し私たちのクリニックをご紹介します。市原市にありますユニモちはら台というショッピングモールの中にあつて、乳がん検診、診療を主に行っています。スタッフは男性医師以外はすべて女性です。マンモグラフィの検診に関しては施設の認定、技師の認定、読影医の認定など、いろいろな決まり事がありますが、それらをクリアしています。また超音波につい

ても、研修を受け資格を取っています。

現在地域連携パスに基づいて、経過観察を行っている患者さんは 130 名ほどおられます。スライドは看護師の石井さんが、乳がん学会発表のときにまとめた数字です。今までに 4 名の方ががんセンターに逆に紹介となりましたが、副作用がおさまって、またこちらで経過を診ている方も含まれています。

また 26 名の方は当院で乳がんが発見されて、がんセンターで治療を受けた方でした。このような方にとっては、がんセンターでの治療という一つの山を越えて帰ってきたというような感覚もあつて、こちらで経過を診ることを違和感なく受け入れていただいているように思います。

地域別の患者さんの数ですが、連携病院がやや偏在しているので、南のちょっと遠方の方から通院せざるを得ない方もいらっしゃいます。遠方の患者さんには検査結果は電話での説明にするなど、なるべく不便が少ないようにしています。



今後の課題としては、乳がんの標準治療は年々変わっていきますので、患者さんの不利益にならないよう、パスは柔軟に対応していくということが重要です。また連携施設も積極的に講演会に参加したり、マンモグラフィや、エコーの技術的なブラッシュアップを継続することで、レベルアップを図る必要があると思います。また1施設だけでは対応できないような精神面でのバックアップとか、整形外科など、ほかの科との連携も必要があるというふうに感じています。今後も連携パスで起こった問題点を検討し、より安心して患者さんが経過観察を受けられる環境をつくっていきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

安心して地域にもどろう-その2

コスモスクリニック看護師 石井 典恵氏



石井 典恵 看護師

コスモスクリニック看護師の石井と申します。当院での地域連携パスの患者さんとのかかわりについて、ご紹介させていただきます。

まず診療の流れですが、拠点病院から紹介状が郵送で届きます。当院は電子カルテを使用しておりますので、カルテに保存しますが、書類はファイルに保管して診察時に活用しています。患者さんが来院した際には必ず看護師が問診をして、体調や治療の副作用の有無、心配なことはないか、また当院のオリエンテーションなどを行っています。

この問診で得られた情報を先生へ報告し、診察が行われます。パスに基づいて定期的なフォローを行うのですが、患者さんに心配なことがあったときはいつでも受診ができると説明を致します。また、バリエーションが発生したときは拠点病院へ紹介しています。

問診や診察のときなどに、患者さんから聞かれた声を少しまとめてみました。手術が終わって1年ぐらいで、パスで当院に紹介される方が半分ぐらいいらっしゃるのですが、やはり補助療法や治療の副作用、傷の痛み、また乳がんの

患者さんの場合はリンパ浮腫を起こす方がいるので、そういったことに関する症状の訴え、転移や再発への不安、また乳房再建の相談、そして定期検査の内容ですね。心配なことがあったときに、追加で検査をしてほしい、などの相談を受けることもあります。また高額な医療費に対して経済的な問題で相談を受けることもありました。

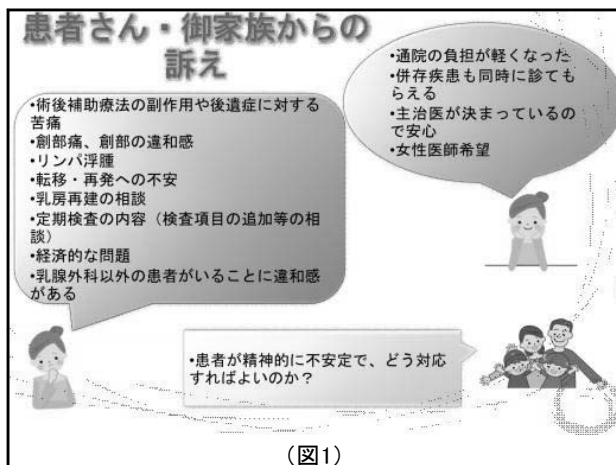
クリニックですので、風邪の患者さんやいろいろな患者さんが来られていますが、実際に初めて来てみて、乳腺外科以外の患者さんがいることに少し違和感を覚えた方もいらっしゃいました。通院の負担が軽くなったり、高血圧や糖尿病や、風邪を引いた時など、並存疾患も一緒に診てもらえてよい、また主治医が決まっているので安心、また当院は女性医師がいますので、女性の先生を希望してこちらに来たという方もいらっしゃいました。そして、ご家族からは患者さんが精神的に不安定で、どう対応すればよいのかという相談を受けたこともありました。

当院の取り組み

患者さん・御家族のQOL向上のために、 当院で取り組んでいること

- ① 患者さん・御家族とのコミュニケーション（信頼関係の構築）
- ② 患者さん・御家族への情報提供
- ③ 御家族のケア
- ④ スタッフ間の連携
- ⑤ スタッフの知識の向上
- ⑥ 乳がん看護認定看護師との連携
- ⑦ 他施設との連携

(図2)



(図1)

そこで、これらの患者さん・ご家族の訴えを聞いて、当院で取り組んでいることを幾つか御紹介させていただきます。

まず1つ目に、パスで紹介された患者さんは当院を受診するのは初めての方がかなり多いので、患者さんが安心して治療を受けるには、まず信頼関係を築くことが重要と考えています。また、入院中と違って外来では、患者さんと接する機会が限られています。内分泌療法のある方は、1ヵ月もしくは3ヵ月ごとの通院です

内分泌療法をされない方は、半年に一回経過観察をしています。手術から5年がたつと、年に1回の通院となっています。ですから、初診時は必ず個室で看護師が問診をして、診察・検査などがあったときは、患者さんの訴えに耳を傾けたり、必要時はこちらから声をかけるようにしています。何か相談事があるときは、事前に御連絡をいただいて、患者さんがゆっくりと相談を受けられるように時間をつくることもあります。

2つ目は、患者さんやご家族への情報提供です。インターネットなどで情報がかなり多用化していたり、患者さんやご家族が疾患に関して勉強をされていたり、患者さん同士の情報交換などもされています。患者さん・ご家族が疑問に思っていることに関しては、先生から説明をしていただいたり、こちらからパンフレットを使って、情報提供をさせていただいています。

3つ目にご家族のケアですが、患者さんのかわりにご家族が家庭内での役割を果たし、ご家族が患者さんのサポートをされていると思います。その中で、患者さんとのかかわりに苦労されている方もいらっしゃいます。ご家族のストレス緩和への援助も必要と考えますが、外来は患者さんが一人で来られることが多いので、ご家族とのかかわりが少ないのが現状です。

4つ目に、先ほど先生の方からもお話がありました。スタッフ間の連携も大事です。患者さんから得た情報はすぐに先生に報告し、カルテやパスに記入してスタッフ全員が共有できるようにしています。また、適時ミーティングを実施して、患者さんのケアに役立っています。

5つ目に、スタッフの知識の向上のために、定期的に院内の勉強会を実施したり、学会やセミナーへの参加、また患者会への参加もさせていただいて、患者さんの生の声を聞いています。

図3に乳がん看護認定看護師と書いてありま

6. 乳がん看護認定看護師との連携

- がん診療拠点病院での患者さんの様子は、把握できないことが多い
- がん診療拠点病院からの継続的な関わりが必要
- 患者さんの情報を得ることは、具体的に間接的にかかわることができ、患者さんも連携がとれていることで安心する
- また、わからないことなどを乳がん看護認定看護師に相談する

専門的知識をもった乳がん看護認定看護師との連携で、適切なケアの提供ができる

(図3)

すが、乳がん看護に関して専門的知識を持った看護師ががんセンターにいらっしゃいますので、連携させていただいています。拠点病院での患者さんの様子は、クリニックではなかなか把握できないことが多いのです。ですから、スムーズにこちらに来ていただくためには、継続的なかかわりが必要と考えています。患者さんの情報を得るということは、具体的にこちらもかかわることができますし、患者さん自信も連携がとれているということで安心をされているようです。またわからないことなどを、乳がん看護認定看護師に相談をしていますので、専門的知識を持った認定看護師との連携で、適切なケアの提供ができています。

7つ目に、他施設との連携ですが、医師だけではなく看護師もこの研究会に参加して、情報交換や勉強会に出席しています。また、緩和ケア・リンパ浮腫治療施設などの専門分野とも連携することで、患者さんのケアに役立っています。

安心して地域にもどれる環境整備を

まとめ

- 地域医療連携クリティカルパスがスムーズに運用され、患者さんが安心して地域に戻れるよう、環境を整える
- 患者さん・御家族が疾患・治療についてどのように認識しているかを把握し、その人らしい生活を送ることができるよう、必要な支援を行う
- 他施設と連携し、患者さん・御家族のニーズに対応する

(図4)

まとめとして、地域連携パスがスムーズに運用されて、患者さんが安心して地域に戻れるように、連携施設の役割としては、そういった環境を整えることが大事だと考えています。また、患者さんやご家族が疾患治療について、どのように認識しているかを把握して、その人らしい生活を送ることができるように、必要な支援を行っていきたいと思います。また施設と連携することで、患者さんやご家族のニーズにも対応していきたいと考えていますので、パスでそれぞれの連携施設に行かれる患者さんは、安心して連携先でもケアを受けられるのではないかと思います。

御清聴ありがとうございました。